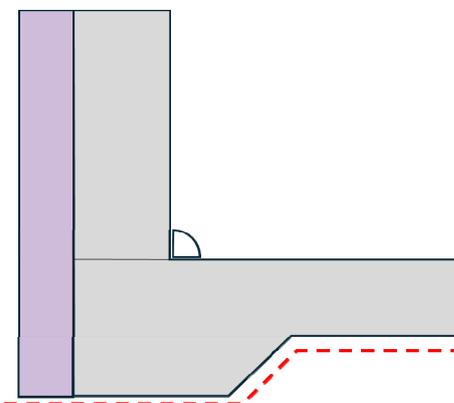


防蟻20年保証 施工要領書 【スタイロフォームTM 基礎外断熱仕様】

ーベタ基礎編ー



発行元: (株)九州テクノ工販
断熱施工技術協力: デュボン・スタイロ(株)
初版: 2026年1月6日

目次

防蟻20年保証 施工要領書 ベタ基礎編
【スタイロフォームTM 基礎外断熱仕様】

項目	頁
シート編 必須専用資材	2
シート編 基礎部	3
断熱材施工編 必須専用資材	5
シート編 玄関部	6
断熱材施工編 玄関部	7
シート編 玄関部	8
断熱材施工編 基礎断熱一般部	10

防蟻20年保証 施工要領書

ーベタ基礎編ー

必須専用資材

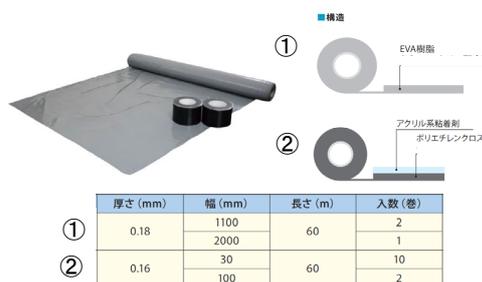
必須専用資材①②:

① 「防蟻防湿シート」

② 「防蟻テープ」

- 従来の防湿シートの代わりに敷くだけで、シロアリと湿気をシャットアウト。
- シロアリに対して忌避性・即効性・残効性のすべての性質を持つ薬剤を含浸。

基礎業者様での施工を想定しています。



注意事項

※必ず事前にお読みください。

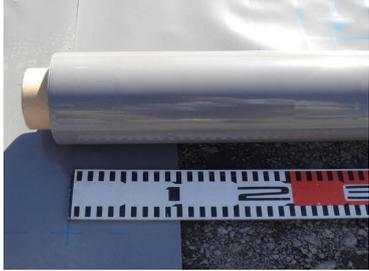
- 本工法(20年保証)は、従来までの殺虫を基本にした防蟻対策とは異なり、忌避性を基本にした防蟻対策となります、そのため、本施工要領書を十分にご理解いただき、必ず正しい施工方法及び、現場監理を実施してください。
万一、施工不備が確認された場合には、建物が保証対象とならない場合もございます。
- 長期優良住宅認定などの取得要件で、劣化対策等級3を充たす必要がある場合には、別途、「外壁の軸組等の防蟻防蟻」として、薬剤処理等が求められます。
薬剤処理にあたっては、本工法(20年保証)の必須専用資材との相性を事前に確認した薬剤にて、専門の防蟻業者にて施工するようにご注意ください。
※防蟻防湿シート、防蟻テープにつきましては、スタイロフォーム™の購入窓口にお問い合わせください。

防蟻20年保証 施工要領書

—バタ基礎編—

基礎部 -①-

●工事全体の流れ/手順/ポイント

<p>—手順①—</p> <p>砕石地業の転圧は振動コンパクターで十分に行います。 防蟻防湿シートの破れ防止のため、出来るだけ平滑に仕上げます。</p> <p>また、シロアリを呼び寄せないように特に木片は注意して取り除いておきます。</p>	 <p>(図1: 砕石敷き込み・転圧後)</p>
<p>—手順②—</p> <p>砕石転圧後、防蟻防湿シートの敷き込みを行います。</p>	 <p>(図2: 防蟻防湿シート施工)</p>
<p>【重ね代について】</p> <p>防蟻防湿シートは100mmの重ね代で敷き詰めます。 防蟻防湿シートの重ね代部分に防蟻テープを施工します。</p> <p>*注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テープは防蟻防湿シート継目全面に張ります。 ・テープはシートの浮きや隙間ができないようにしっかりと圧着します。 ・重ね代は100mmです。 	 <p>(図3: 重ね代の例 最低 100 mm以上)</p>
<p>—手順③—</p> <p>防蟻防湿シート施工後、周囲を捨てコンで止めます。</p> <p>※重要① 防蟻防湿シートは基礎の外周より150mm以上、外に出して施工します。</p> 	 <p>(図4: 防蟻防湿シート敷き込み場所)</p>

防蟻20年保証 施工要領書

ーベタ基礎編ー

基礎部 -②-

<p>※重要②</p> <p>防蟻防湿シートを貫通する部分は防蟻テープで補修します。</p> <p>防蟻防湿シート施工後に雨が降りシート上に水が溜まった場合、原則、シートには穴を開けずに雨上がりにドライワイパー等でかきだします。やむなく、穴を開けて排水してしまった場合には穴を開けた箇所は防蟻テープで必ず補修します。</p>	 <p>(図5:配管貫通部処理方法)</p>
<p>※重要③</p> <p>施工品質を上げるため防蟻防湿シートの敷き込み後に捨てコンを行ってください。</p>	 <p>(図 6:捨てコン施工後の防蟻防湿シート写真)</p>
<p>【防蟻防湿シート 施工注意点】</p> <p>コンクリートを流す範囲全てに施工します。</p> <p>玄関ポーチ、勝手口、給湯器、ウッドデッキ等のコンクリートが後打ち、増し打ちの場合は施工不要です。 *一体基礎の場合は施工が必要です。</p> <p>【防蟻防湿シート 施工後チェック項目】</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 防蟻防湿シートに穴・破れはないか。 ⇒穴が空いている・隙間がある場合、防蟻テープで補修する。 *破れが大きい場合は防蟻防湿シートを重ね張りして防蟻テープでとめる。<input type="checkbox"/> 給排水管等により防蟻防湿シートを貫通させていないか。 ⇒貫通させた場合は配管廻りと開口部を防蟻テープで補修する。<input type="checkbox"/> 深基礎の場合は深基礎部分を防蟻防湿シートで囲い込むように施工し、露出部分がないか確認する。 *施工後、防蟻防湿シートの写真の撮影をお願いします。 (防蟻保証適用申請時に必要の為。) *施工写真を撮る際、看板ボードに施工日付と現場名を明記してください。	

防蟻20年保証 施工要領書

ーバタ基礎編ー

必須専用資材

<p>必須専用資材① ②:</p> <p>① 防蟻断熱材「スタイロフォーム™ AT」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防シロアリ性能があり、吸水性が低くコンクリートと同時打込みも可能なので、基礎外側断熱工法に適した断熱材です。 <p>② 防蟻断熱材スタイロフォーム™ AT専用接着剤「AT-02」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 防蟻断熱材スタイロフォーム™ ATを使用した基礎断熱工法断熱材目地の防蟻措置やコンクリート打ち継ぎ部等の防蟻措置等に用いる接着剤です。 <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; margin-top: 10px; text-align: center; color: red;"> 基礎業者様での施工を想定しています。 </div>	<div style="text-align: center;">   </div> <p style="text-align: center;">スタイロフォーム™ AT 防蟻接着剤 AT-02</p> <p>■物性 JIS A 9521:「建築用断熱材」押出法ポリスチレンフォーム断熱材</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>JIS規格/単位</th> <th>スタイロフォーム™AT</th> <th>試験法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JIS製品記号</td> <td>JIS A 9521</td> <td>XPS3bA</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>密度</td> <td>kg/m³</td> <td>25以上</td> <td>JIS A 9521</td> </tr> <tr> <td>熱伝導率</td> <td>W/(m・K)</td> <td>0.028以下</td> <td>JIS A 9521</td> </tr> <tr> <td>透湿係数</td> <td>ng/(m²・s・Pa)</td> <td>145以下</td> <td>JIS A 9521</td> </tr> </tbody> </table>		JIS規格/単位	スタイロフォーム™AT	試験法	JIS製品記号	JIS A 9521	XPS3bA	-	密度	kg/m³	25以上	JIS A 9521	熱伝導率	W/(m・K)	0.028以下	JIS A 9521	透湿係数	ng/(m²・s・Pa)	145以下	JIS A 9521
	JIS規格/単位	スタイロフォーム™AT	試験法																		
JIS製品記号	JIS A 9521	XPS3bA	-																		
密度	kg/m³	25以上	JIS A 9521																		
熱伝導率	W/(m・K)	0.028以下	JIS A 9521																		
透湿係数	ng/(m²・s・Pa)	145以下	JIS A 9521																		
<p>必須専用資材③:</p> <p style="text-align: center;">「テクノ防蟻フォーム」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 断熱、気密性能はそのままに防蟻効果をプラス。環境に配慮したノンフロン。 ● 用途に応じてノズルとガンとの2仕様で使用可能。 注)ガンは別売りです。 <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; margin-top: 10px; text-align: center; color: red;"> 大工様または設備業者(配管回り)様での施工を想定しています。 </div>	<div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p>■施工方法</p>  </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>容量 (ml)</th> <th>施工目安 (ノズル使用)</th> <th>入数 (本)</th> <th>付属品</th> <th>有効成分</th> <th>フォーム色</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>750</td> <td>直径20mmで90m</td> <td>12 <small>(1/2ガリ研可)</small></td> <td>ノズル 各1本</td> <td>アセタミプリド <small>(ネオニコチノイド系防蟻剤)</small></td> <td>オレンジ</td> </tr> </tbody> </table>	容量 (ml)	施工目安 (ノズル使用)	入数 (本)	付属品	有効成分	フォーム色	750	直径20mmで90m	12 <small>(1/2ガリ研可)</small>	ノズル 各1本	アセタミプリド <small>(ネオニコチノイド系防蟻剤)</small>	オレンジ								
容量 (ml)	施工目安 (ノズル使用)	入数 (本)	付属品	有効成分	フォーム色																
750	直径20mmで90m	12 <small>(1/2ガリ研可)</small>	ノズル 各1本	アセタミプリド <small>(ネオニコチノイド系防蟻剤)</small>	オレンジ																



注意事項

※必ず事前にお読みください。

- 本工法は、防蟻防湿シート工法(20年保証)に付随する工法として、断熱材を用いた基礎断熱工法専用の防蟻対策で防蟻防湿シート工法(20年保証)を前提に使用する工法なので、防蟻防湿シート工法以外の工法で使用する場合、20年保証は適用されません。
また、本施工要領書を十分にご理解いただき、必ず正しい施工方法及び、現場管理を実施してください。
万一、施工不備が確認された場合には、建物が保証対象とならない場合もございます。
- 長期優良住宅認定などの取得要件で、劣化対策等級3を充たす必要がある場合には、**別途、「外壁の軸組等の防蟻防蟻」として、薬剤処理等が求められます。**
薬剤処理にあたっては、防蟻防湿シート工法(20年保証)の必須専用資材との相性を事前に確認した薬剤にて、専門の防蟻業者にて施工するようにご注意ください。
※テクノ防蟻フォームにつきましては、スタイロフォーム™の購入窓口にお問い合わせください。

防蟻20年保証 施工要領書

—バタ基礎編—

玄関部 -①-

—手順①—

玄関土間部分にも防蟻防湿シートを敷いてください。

手順としては

- ①防蟻防湿シート敷き込み
- ②碎石の埋め戻し
- ③埋め戻した碎石の上に防蟻防湿シートで敷き込み、
四隅を防蟻テープで貼りつける。

各工務店様によって、施工手順は変わりますが、玄関部の底盤と一番上に防蟻防湿シートをかぶせ、四隅を防蟻テープで貼り付けてください。



(図7: 玄関土間の施工例②防蟻防湿シート敷き込み)

*注意事項

*必ずテクノ防蟻フォーム施工後、施工部位の写真撮影をお願いします。

防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。写真がない場合は、保証申請が出来ませんのでご注意ください。

*施工写真を撮る際、看板ボードに施工日付と現場名を明記してください。

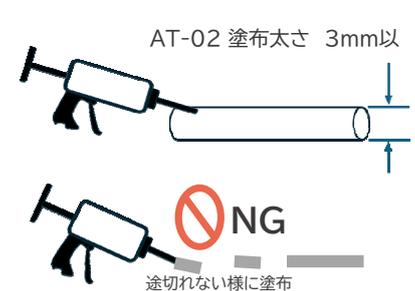
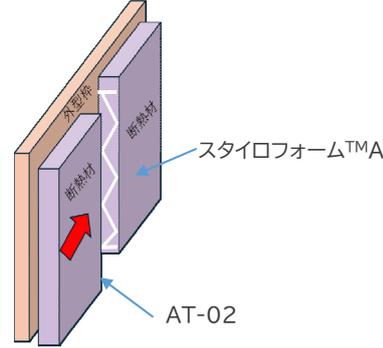
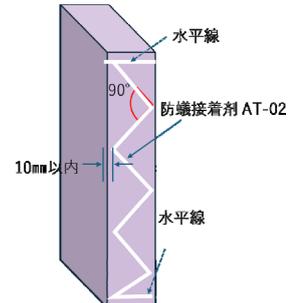
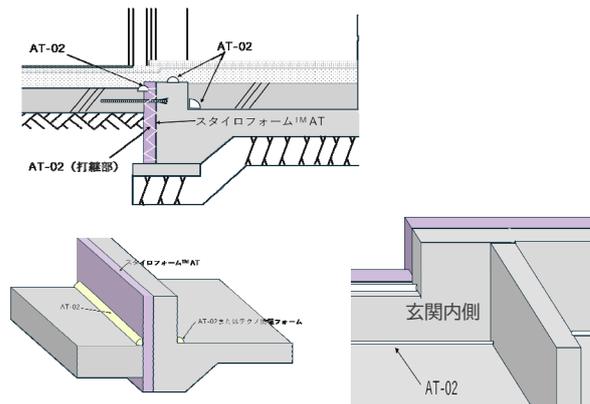
防蟻20年保証 施工要領書

一ベタ基礎編一

玄関部 -②-

●スタイロフォーム™ AT施工位置

※ 基礎外断熱は基礎外周部全ての部位において、必ず防蟻断熱材「スタイロフォーム™ AT」を施工してください。

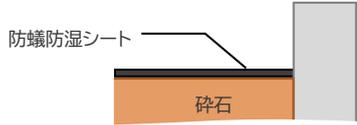
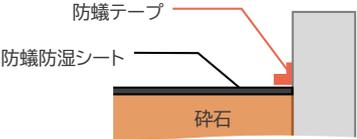
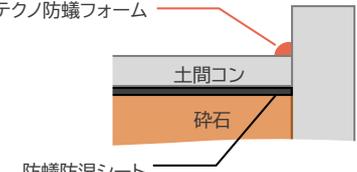
<p>① 防蟻接着剤「AT-02」の塗布は、断熱材小口直径3mm程度の線状塗布、コンクリート打ち継ぎ部直径5mm以上としてください。</p> <p>② 接着剤が途切れないように塗布する必要があります。</p>	 <p>AT-02 塗布太さ 3mm以上</p> <p>NG 途切れない様に塗布</p>
<p>① 断熱材「スタイロフォーム™ AT」は必ず基礎コンクリートの打設に合わせ打込みとしてください。</p> <p>② 土間コンクリートを打設する前に、予め外型枠に断熱材を設置してください。</p> <p>③ 断熱材の小口の部分は、防蟻接着剤「AT-02」をジグザグ状に塗布し、隣り合う断熱材の小口部に密着固定させてください。</p> <p>④ 断熱材は、コンクリート打設によりズレが生じないように、強固に固定しておいてください。</p>	 <p>スタイロフォーム™ AT</p> <p>AT-02</p>
<p>① 基礎外型枠に設置するに際し、断熱材の小口部分に防蟻断熱材をジグザグ状に塗布してください。</p> <p>塗布要領は左図を参照ください。</p>	 <p>水平線</p> <p>90°</p> <p>防蟻接着剤 AT-02</p> <p>10mm以内</p> <p>水平線</p>
<p>基礎外断熱時の防蟻施工(AT-02施工)</p> <p>基礎外周へ断熱材を施工する際は防蟻断熱材「スタイロフォーム™ AT」の使用が必須となります。</p> <p>断熱材は基礎コンクリート天端で切り揃えます。</p>	 <p>(図1:断熱材天端部)</p>
<p>スタイロフォーム™ ATを打込み施工する場合</p>	
 <p>AT-02</p> <p>AT-02</p> <p>スタイロフォーム™ AT</p> <p>AT-02 (打継部)</p> <p>玄関内側</p> <p>AT-02</p>	<p>① 基礎天端 ドアフレーム下部付近に「AT-02」を施工してください。</p> <p>② タイル下地を打設する前に、玄関ポーチ部の土間コンクリートとスタイロフォーム™ ATの継ぎ目に「AT-02」を施工してください。</p> <p>③ 断熱材の小口の縦目地部分には、「AT-02」を断熱材の幅一杯にジグザグに塗布して、断熱材どうしを貼り合わせてください。</p>

防蟻20年保証 施工要領書

—ベタ基礎編—

玄関部 -③-

●砕石埋め戻しの場合の施工手順

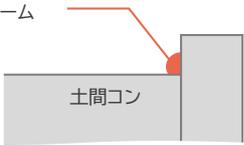
<p>—手順①—</p> <p>玄関部分に砕石(土砂)を埋め戻します。 *玄関の埋め戻し部分に防蟻防湿シートを被せます。</p> 	 <p>(図 1:玄関部 砕石埋め戻し)</p>
<p>—手順②—</p> <p>被せた防蟻防湿シートの四隅を防蟻テープで目張りします。</p> 	 <p>(図 2:玄関部 砕石埋め戻し後防蟻防湿シート施工)</p>
<p>—手順③—</p> <p>玄関コンクリートが固まった後、基礎立ち上がりと土間との取り合い部分にテクノ防蟻フォームを施工します。</p> 	 <p>(図 3:玄関部 テクノ防蟻フォーム施工)</p>
<p>*注意事項</p> <p>*必ずテクノ防蟻フォーム施工後、施工部位の写真撮影をお願いします。 防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。写真がない場合は、保証申請が出来ませんのでご注意ください。</p> <p>*施工写真を撮る際、看板ボードに施工日付と現場名を明記してください。</p>	

防蟻20年保証 施工要領書

—ベタ礎編—

玄関部 -④-

●生コンでの埋め戻しの場合の施工手順

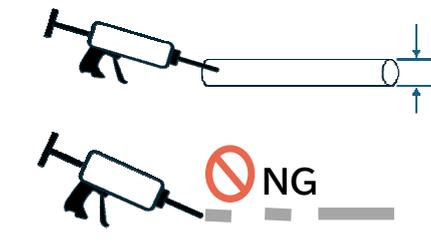
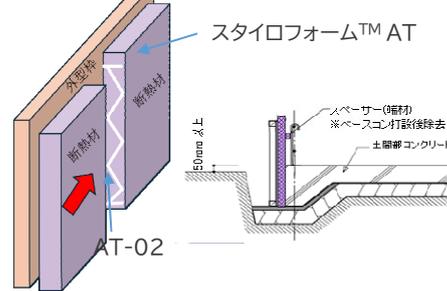
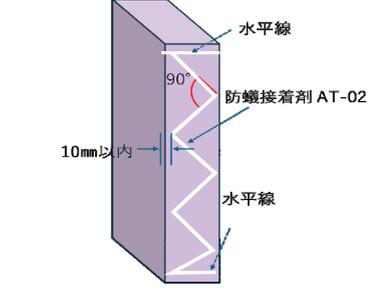
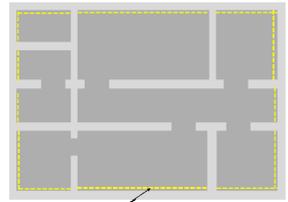
<p>—手順①— 砕石はなく、コンクリートで埋め戻しする場合</p> 	 <p>(図 1: 玄関部 コンクリートによる埋め戻し)</p>
<p>—手順②— 玄関部にコンクリートを流して埋め戻す場合、 玄関コンクリートが固まった後、立ち上がり部分と土間部分 との取り合い部にテクノ防蟻フォームを施工します。</p> <p>テクノ防蟻フォーム</p> 	 <p>(図 2: 玄関部 テクノ防蟻フォーム施工)</p>
<p>*注意事項</p> <p>*必ずテクノ防蟻フォーム施工後、施工部位の写真撮影をお願いします。 防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。写真がない場合は、保証申請が出来ませんのでご注意ください。</p> <p>*施工写真を撮る際、看板ボードに施工日、現場名を明記してください。</p>	

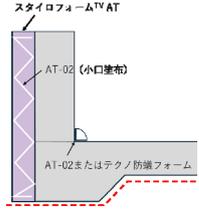
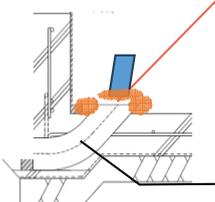
防蟻20年保証 施工要領書

—ベタ基礎編—

一般部・その他

●テクノ防蟻フォーム施工手順

<p>① 防蟻接着剤「AT-02」の塗布は、の線状塗布としてください。接着剤の塗布太さは、右図の指示に従ってください。</p> <p>② 接着剤が途切れないように塗布する必要があります。</p>	 <p>途切れない様に塗布</p>
<p>① 断熱材「スタイロフォーム™ AT」は必ず基礎コンクリートの打設に合わせ打込みとしてください。</p> <p>② 土間コンクリートを打設する前に、予め外型枠に断熱材を設置してください。</p> <p>③ 断熱材の小口の部分は、防蟻接着剤「AT-02」をジグザグ状に塗布し、隣り合う断熱材の小口部に密着固定させてください。</p> <p>④ 断熱材は、コンクリート打設によりズレが生じないように、強固に固定しておいてください。</p>	
<p>① 基礎外型枠に設置するに際し、断熱材の小口部分に防蟻断熱材をジグザグ状に塗布してください。</p> <p>塗布要領は左図を参照ください。</p>	
<p>基礎打ち継ぎ部</p>  <p>AT-02またはテクノ防蟻フォーム</p> <p>基礎のベースと立ち上がりの打ち継ぎ部分(基礎外周全周)を防蟻接着剤「AT-02」、または「テクノ防蟻フォーム」で施工します。</p>	 <p>(図 1: 基礎外周全周 テクノ防蟻フォーム施工)</p>

<p>基礎外断熱時の防蟻施工(AT-02施工)</p> <p>基礎外周へ断熱材を施工する際は防蟻断熱材「スタイロフォーム™ AT」の使用が必須となります。断熱材は基礎コンクリート天端で切り揃えます。</p> <p>打ち継ぎ部AT-02 塗布太さ 5mm以上</p> 	 <p>(図 2:断熱材天端部)</p>
<p>【基礎貫通スリーブの場合】</p> <p>テクノ防蟻フォーム</p> <p>基礎と基礎貫通スリーブ外周の接地面にテクノ防蟻フォームを施工します。さや管と給水管等の隙間にもテクノ防蟻フォームを施工します。</p> <p>さや管</p> 	 <p>(図 3:基礎貫通スリーブ テクノ防蟻フォーム施工)</p>
<p>水抜き穴</p> <p>上棟後、雨仕舞後に水抜き穴を埋めます。セパレータ等の穴も同時にフォームで埋めます。</p>	 <p>(図 4:水抜き穴 テクノ防蟻フォーム施工)</p>
<p>*注意事項</p> <p>玄関部分のテクノ防蟻フォーム施工に関しては施工方法が異なる為、全項目の「玄関部施工仕様書 保証適用仕様」の玄関部分に砕石を埋め戻す場合の方法か、玄関部分に生コンを直接埋め戻す場合の方法のどちらかの施工をお願いします。</p> <p>施工後、保証適用申請の際に写真が必要になりますので施工部位の写真撮影をお願いします。</p> <p>*施工写真を撮る際、看板ボードに施工日付と現場名を明記してください。</p>	

■注意点まとめ

施工後、施工部位の写真は必ず撮影してください。

防蟻保証適用申請の際に写真が必要になります。

保証申請に必要な写真は、以下の4つになります。

- シート施工の全景写真
- 玄関部の施工写真
- AT-02(防蟻接着材)・テクノ防蟻フォーム施工写真(配管廻り、基礎外周部施工写真)
- スタイロフォーム™ ATを設置する際の小口部接着剤塗布状況

本保証に関するお問い合わせは、下記もしくは担当営業までご連絡ください。

防蟻防湿シート関連:株式会社九州テクノ工販
電話:092-408-7884
メール: info@9-techno.com

断熱材関連:デュポン・スタイロ株式会社
<https://www.dupontstyro.co.jp/inquiry.php>